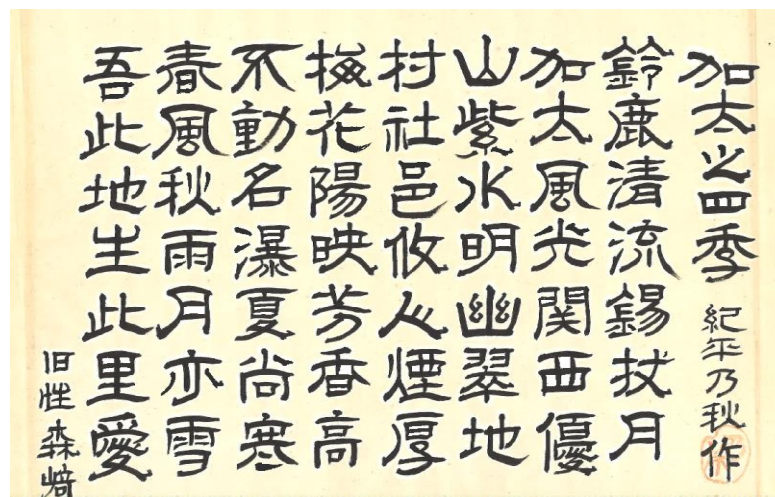


加太の四季



校長室の本棚に入っていた作品です。いつ頃、書かれたものかはわかりませんが、紀平乃秋（きひら たいしゅう）という方の作品です。

作者について調べていたところ、地域の方より情報をいただき、向井地区に住んでみえる森崎 進さんの祖父の弟に当たる方（本名：才粥＝さいか）であることがわかりました。

この作品には、紀平さんの生まれ育った加太をこよなく愛する想いや加太で生まれ育ったことを誇りに思う気持ちが溢れています。

加太を離れ京都に住まわれた後も、度々、加太を訪れ、川で釣った魚を食べたり、山を散策したり、かんこ踊りや盆踊りに参加したりして、加太を満喫されていたそうです。

加太の四季 紀平乃秋 作

鈴鹿川の清流や錫杖岳にかかる月

加太の景色は関西の中でも優れたものだ。

山水の景色がとても美しく、草木も青々とし緑の美しい地である。

村の神社（川俣神社？）では、村々の人々の豊かな暮らしを祈る。

梅の花は、陽に映え、良い香りがし、

有名な不動滝は夏でも水が冷たく、

春の風 秋の雨、月や雪もまた良いものである。

私はこの地（加太）に生まれ、この里（加太）を愛する。

現代語訳：亀山市歴史博物館 中川学芸員